

眺望

PROSPECTS

NTT西日本株式会社

熊本支店長 二宮 裕一郎



情報通信の歩みと未来への期待

人類は古来より、情報を伝えるために知恵を絞ってきました。太鼓の音や狼煙、たいまつといった原始的な手段に始まり、日本では奈良時代に公的制度として飛脚が整えられ、江戸時代には民間の通信サービスへと発展していきました。

無線技術の歴史は比較的浅く、1895年に世界で初めて無線電信が実用化され、1912年のタイタニック号沈没事故を契機として、その重要性が世界的に認知されるようになりました。そして1970年代にはインターネットの原型となるネットワークが誕生し、2000年代に入って急速に普及したことで、情報通信は飛躍的な進化を遂げてきました。

その後のブロードバンド環境の拡大、モバイル端末の進化、SNSの普及などは、人々の働き方や暮らし方に劇的な変化をもたらしました。長い歴史を振り返っても、これほど急激かつ広範な変化は例を見ません。まさに私たちは、情報通信の力が社会の姿そのものを塗り替えていく時代を生きていると言えるでしょう。

そして今、その変化をさらに加速させているのが生成AIです。2022年に商用化されたChatGPTは、リリースからわずか2カ月で1億人規模のユーザを獲得しました。Facebookが約4年半、Instagramが約2年半を要したことを考えると、その浸透スピードは驚異的と言えます。

電力や自動車、インターネットのように、幅広い分野で応用され社会全体に大きな影響を及ぼす技術は「汎用技術」と呼ばれます。生成AIもその一つと捉えられていますが、まだ大きな成長の余地を秘めています。その可能性の一つが、ゼロから新たな価値を生み出すイノベーションの力です。

イノベーションは、自らの知恵と他者の知恵が結びつくことで生まれ、その距離が離れているほど新鮮さや意外性が増すと言われています。生粋の大阪人である私は、生成AIにイノベーションを期待する分野として「お笑い」に着目しています。お笑いは、想定外の言葉や状況の組み合わせによって笑いを生み出す世界であり、文脈の理解、間、価値観のズレといった高度な知的要素が凝縮された分野でもあります。この世界で、生成AIが人の心を揺さぶる“会心のネタ”を生み出す日が来るのか——そんな未来を楽しみにしています。

次世代に目を向けると、Z世代に続くα世代は、幼少期からAIとともに育つ初めての世代です。いわばAIネイティブである彼らは、知識や世界との接点が飛躍的に広がり、これから社会に多大な影響を与えていく存在になると考えられています。

一方で、世界は分断の時代にあります。武力紛争や経済摩擦が相次ぐ今こそ、確固たる倫理観や道徳観を持ち、それを守り続けることが求められています。我々の世代よりもはるかに新技術を使いこなす次世代に対し、この倫理観・道徳観を伝え続けていくことこそが、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか。